

岐阜大学工業倶楽部 関西支部会報 第11号

第11号発刊によせて

関西支部 支部長 岡田 敏嗣

関西支部会員の皆様におかれましては、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。日頃から当支部の諸活動や行事にご協力とご支援を頂き心より御礼申し上げます。私は、昨年の「設立10周年記念 定期総会」の役員改選により、木内前支部長から引き継いで支部長を司ります岡田 敏嗣です。関西支部 会報 第11号の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。



今や全世界を席卷しています「新型コロナウイルス感染症」が、最大の関心事となっています。昨年12月に中国・武漢で発症し、瞬く間に世界中に広がってしまい、今や感染していない国はないという事態にまで発展してしまいました。わが国においては、多くのスポーツ・文化イベント等が中止を余儀なくされ、学校においては長期間の休校がなされ、4月7日には当支部のテリトリーである大阪府・兵庫県を含めて7都府県に対して「緊急事態宣言」が発せられ、続いて16日には全国に拡大されると共に大阪府・京都府・兵庫県が「特別警戒都道府県」に指定される等、多くの店舗の営業自粛、不要不急の外出自粛、3蜜(密閉・密集・密接)の回避等あらゆる感染拡大の防止策がとられました。その結果、ようやく5月21日に大阪府・京都府・兵庫県の「緊急事態宣言」が解除され、関西圏も終息する気配が見えて来ました。今後は、油断せず第2波・第3波に注意を払いつつ、徐々に元の生活に戻っていき、来年に延期された「東京オリンピック・パラリンピック」が無事に開催されることを願うばかりです。このように前代未聞の緊急事態となっていますが、目に見えないウイルスの恐ろしさを改めて実感しています。人類の英知により何とかこの難局を乗り越えたいものです。

さて、昨年は「岐阜大学創立70周年」「関西支部設立10周年」の記念すべき年でした。設立10周年記念定期総会では、大学より森脇久隆学長に「岐阜大学の現状と方針について」のご講演を頂きました。機械工学科の菊地准教授からは、記念講演として「空力浮上高速交通システム エアロトレイン」のご講演を頂きました。懇親会は、ご来賓の村井工学部長と坪内工業倶楽部会長のご挨拶で始まり、特別企画として、岐阜大学落語研究会の3名のメンバーによる落語やGAMA企画の川口氏のマジックがあり大いに盛り上がりしました。関西支部の行事としては、10月に「大阪市立阿倍野防災センター体験&あべのハルカス見学会」、11月は「第9回 交流会ゴルフコンペ」、奇数月には「麻雀同好会」が実施されております。

本年の方向性として、岐阜大学では4月より名古屋大学との「東海国立大学機構」がスタートし、統合によって人的・物的資源の効率化や有効活用を進め、教育、研究の高度化が図られ、東海地域の持続的発展に一層貢献することと国際的な競争力向上を目指しての活動が始まります。

一方、関西支部においては、①新会員の勧誘、②効率化の推進、③産学連携の推進、④工業倶楽部(本部・他支部)との連携推進、⑤同窓会連合会(教育学部・地域科学部・医学部・医学部看護学科・工学部・応用生物科学部の6学部等の同窓会組織)での交流等が主な活動テーマになっておりますが、これらも「新型コロナウイルス感染症」の関係で見通せていない状況です。活動が再開でき次第、順次進めていきたいと思っております。

最後に、関西支部の更なる発展のために、会員皆様の一層のご協力・ご支援をお願い致します。

岐阜大学工業倶楽部 関西支部 委員会報告

◇総務委員会◇

総務委員長 大森 和男

1. 「設立10周年記念 定期総会」の開催

2019年7月7日(日)茨木市福祉文化会館(オークシアター)において、来賓に岐阜大学より森脇久隆学長、村井利昭工学部長、菊地聡工学部機械工学科准教授、岐阜大学工業倶楽部より坪内繁樹会長、内田裕市専務理事、片岡幾男西濃支部長、関西支部設立に大変お世話になりました磯貝徹元工業倶楽部会長と檜和田宗彦元工業倶楽部専務理事をお招きし、総勢41名で開催いたしました。

第1部 総会では、報告事項として2018年度 事業報告・会計報告・特別会計報告・会計監査報告がなされ、続いて決議事項として役員任期満了に伴う新役員選出(案)、2019年度 事業計画(案)・予算(案)が審議され承認されました。

第2部 特別講演では、森脇学長より『岐阜大学の現状と方針について』のご講演をいただきました。岐阜大学は、本年創立70周年を迎え、国立大学86校中16～23番目の位置を占める等、大学としても非常に足腰が強くなった。一方、日本の18歳人口は、205万人をピークに20年先には68万人に激減する等、高等教育が非常に厳しい状況を迎えている。このような状況から「岐阜大学」と「名古屋大学」とは、両大学の持てる力を共有し地域創生への貢献と国際的な競争力向上を両輪とした発展を目指し、全国の大学に先駆けて「一法人複数大学」として統合する準備を加速している。そして、本年4月1日には「国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学」が誕生する運びとなったと報告されました。

引き続き、記念講演では、菊地准教授より『空力浮上高速交通システム エアロトレイン』についてご講演をいただきました。エアロトレインは、磁力で浮上・走行するリニアとは異なり、列車に翼を付けたイメージで翼の地面効果を有効利用して効率的に浮上走行することによって、研究の最終目標である自然エネルギーのみで時速500kmの運行を目指している。その成果は、テレビでも紹介される等、注目されています。現在は、プロジェクトが終了しエアロトレインの実現を目指した基礎的実験に取り組んでおられます。

第3部 懇親会は、来賓の村井工学部長と坪内工業倶楽部会長からご挨拶をいただき、内田工業倶楽部専務理事の乾杯で始まりました。そして、設立10周年記念の特別な催しとして企画しました岐阜大学落語研究会メンバーによる落語でスタートしました。そのトップバッターは女性の「鵜飼家みりん」こと長屋美希さん(大学院 教育学研究科1年 総合教科教育専攻)から演目「松竹梅」で華やかに幕開けし、続いて「ながら家走太郎(らんたろう)」こと長屋圭一郎さん(大学院 自然科学技術研究科2年 知能理工学専攻)から「熊の皮」で盛り上がり、最後は真打「ながら家千兵衛(せんべい)」こと古澤長流さん(応用生物科学部 2018年卒 2017年8月「第8回てんしき杯学生落語王者決定戦王者」)から「オレだよオレオレ、そうそう鈴ヶ森(古典落語「鈴ヶ森」の改作)」で締めくくりました。

引き続きGAMA企画の川口 雅昭氏によるマジックショーは、アシスタントの奥様との息の合った鮮やかな手さばきで、大いに堪能させていただきました。

その後、片岡西濃支部長、磯貝元工業倶楽部会長、檜和田元工業倶楽部専務理事の方々からお祝いのお言葉をいただき、最後に岡田新支部長の「閉会の辞」で終了いたしました。





総会



森脇学長による特別講演



菊地准教授による記念講演



懇親会



村井工学部長



坪内工業倶楽部会長



片岡西濃支部長



檜和田元工業倶楽部専務理事



磯貝元工業倶楽部会長



GAMA 企画(川口 雅昭氏)



岐阜大学落語研究会メンバー

古澤 長流氏(左)、長屋 圭一郎氏(中)、長屋 美希氏(右)

2. 役員会の開催及び取りまとめ

現在まで、役員会を2回（①2019.8/10、②12/7）備後町ビル3階会議室にて開催いたしました。

なお、③2020.3/14、④4/18の2回は、新型コロナウイルス感染拡大による会合等の自粛を受けて中止しましたが、「第12回 定期総会」の開催を実施するか否か等、重要な案件の審議については、役員会の代行措置としてインターネットによって役員相互の意見交換と共有化を図りました。

3. 新規会員の入会促進策の継続実施

本年度は、支部設立10周年記念事業の遂行を最優先させたため、新規会員の入会勧誘策は実施していません。今後、役員会で取り組み方等を検討する予定です。

4. イノベーションプロジェクト活動

一昨年5月に岐阜大学 研究推進・社会連携機構 産官学連携本部より「産学連携アドバイザー」の委嘱を制度発足第1号として5名が取得し、本年度も5名全員が更新いたしました。これを活用した支部有力企業との産学連携については、残念ながら中断しています。

次なる候補を募集していますので、有力情報等があれば事務局までご連絡下さい。

◇会報編集委員会◇

会報編集委員長 菅村 浩

設立10周年記念誌の発行とホームページのメンテナンスと更新を行いました。特に記念誌は、毎年発行していましたが会報（8ページ）を「記念誌」として24ページにして、設立からの10年の歴史を分かり易く、見て、思い出していただけるようにまとめました。

そのため、表紙は「設立総会」から「第10回 定期総会」までの総会資料の表紙を用いて、「10」の文字を形取ったデザインにいたしました。

本文では、森脇学長をはじめ大学関係者や工業倶楽部のお世話になった方々にも寄稿していただきました。

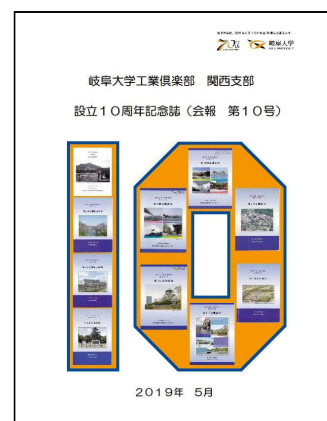
更に、関西支部の「10年の歩み」を各行事の写真を盛り沢山掲載し、会員の皆様に活動の経緯が分かるようにいたしました。

会員の皆様に支部役員を少しでも知っていただくために「役員紹介」と「歴代役員履歴」を掲載しています。

「役員紹介」については、本会報（第11号）でも引き続いて掲載していきますので、ご覧ください。

また、ホームページの更新については、出来るだけ早く行事の案内や結果を掲載しました。過去の情報も参照できるようにしています。行事の結果については、写真を多く掲載するようにしました。本部や他の支部とのリンクも充実させました。

これからも関西支部の情報発信をタイムリーに続け会員の更なる増加と会員相互の情報交換が出来るようにホームページの充実を図ってまいります。



◇名簿管理委員会◇

名簿管理委員長 米元 孝博

- ・会員名簿作成（令和2年5月31日）
- ・会員の動静（令和2年5月31日）

会員数 令和元年5月31日	増員 (+)	減員 (-)	現在の会員数 令和2年5月31日	増減
148	0	2	146	▲2

◇行事委員会◇

行事委員長 塚口 義清

1. 大阪市立阿倍野防災センター体験&あべのハルカス見学会

○開催日：2019年10月5日（土） ○参加者：10名

○場所：大阪市天王寺区阿倍野筋

最初の見学先となった阿倍野防災センターは、一昨年から改装工事がなされており、ようやく完成したのに伴い見学が実現しました。まず、地震コーナーにおいて震度7を体験させられましたが、想像以上の激しい揺れに手摺から手を離すことができず、改めて地震の怖さを実感させられました。その他に地震発生時の避難・消火・救助や発生後の危機回避等の学習もあり、今後想定される南海トラフ巨大地震の際にも役立つ貴重な体験でした。

次に、徒歩で数分の日本一高いビル「あべのハルカス」に行き、23階に有る阪南大学のあべのハルカスキャンパスを訪問しました。そこで阪南大学の小林課長よりあべのハルカスの概要についてビルが完成するまでの経緯やビルの特徴(構造概要、ビルの耐震性能と環境性能等)を詳しくお聞きしました。

このビル情報を持って日本一高い超高層複合ビルの最上階(60階)の展望台に行きました。そこは地上300m、近くは大阪市内を360度望み、遠くは神戸市街地から明石海峡大橋、そして関西国際空港も一望できる等、さすが日本一のビルを体感しました。

展望台から2階下がって58階のオープンエアのカフェダイニングバーに移動して”ビール”と”おでん”で1時間ほど空中景観を楽しみながらの「空中懇親会」となりました。



大阪市立阿倍野防災センターにて



「あべのハルカス」空中懇親会



震度7 地震体験コーナー

2. 第9回 交流会ゴルフコンペ

○開催日：2019年11月12日（火） ○参加者：10名

○場所：関ヶ原カントリークラブ（岐阜県大垣市）

今回も1964(S39)年工業化学科卒の「39会」様との合同ゴルフコンペとなりました。

昨年は、体調不良者が続出し中止となりましたが、今回は元気にメンバーが揃い3組10名のコンペとなりました。当日は、雲ひとつ無い絶好のゴルフ日和に恵まれ、和気あいあいのプレーで懇親を深め、大変楽しいひと時を過ごすことができました。



スタート前



プレー後の懇親会

■ 会員の声 ■

「スキーと私」

井上 和夫 (1972年 精密工学 修)

私の生まれ故郷は南国徳島です。子供の頃は数年に一度雪が膝まで積もる時があって、大喜びで雪だるまを作ったり、雪合戦、にわかソリで遊んだ記憶がありますが、スキーとは全く縁遠いものでした。

岐大に入学した最初の冬休みの前に下宿友達（繊維科のI君）から教養学部体育科主催のスキー教室に誘われました。私を誘った理由は、I君は日頃体育の授業出席率が悪く、教官から「今のままでは単位はやれない、留年だ。但し、冬休みのスキー教室に参加すれば不足の単位は取れる。」と言われ、一人で参加するのは心細いので一緒に行かないかとのことでした。



正月明け、名古屋駅から長野行きの夜行列車「千曲」に乗り込み、座席の下に新聞紙を敷いて寝たのを覚えています。翌朝到着したところは「菅平スキー場」。ここの雪はパウダースノーと言って、雪を丸めて手を離すとパラパラ散りながら落ちたので、南国の湿った雪しか知らない私には大きな驚きでした。

いよいよスキー教室初日、大学から貸出されたのはゴム靴・木製スキー板に竹のストック。スキー板を付けた途端、身体がバックしたのに又びっくりでした。ゲレンデの両脇には新雪を被った木々が並び、リフトから見るとクリスマスツリーの森のようでした。教室の最後に崖のような凸凹斜面を全員直滑降で下りることになり、自分の番が来た時の恐怖は今も鮮明に覚えています。

それから30余年、信州に居る小学生の孫達と一緒にスキーをする機会があり、本格的にスキーを再開しました。70歳を過ぎた今も、会社の同期と毎年2回程信州のスキー場に出掛けて白銀のゲレンデを滑降しています。

■ 役員紹介 ■

◆ 行事委員長 塚口 義清 (1971年 機械工学科 卒)

<仕事>

1971 (S46) 年4月、大阪ガス(株)に入社。大阪ガスは都市ガスを製造し、ガス導管を通じてお客様宅に都市ガスを販売している会社です。入社して半年間は、製造関連業務、ガス導管及び供給関連業務、営業及び販売業務の3分野の実習と体験学習を受けて現況を理解することでした。この経験が、後に甲種ガス主任技術者の資格取得につながりました。



最初の配属先は導管・供給関連分野の業務でした。そこではガス管とその関係する設備の維持管理と新規パイプラインの建設する業務が主でした。

ガス導管の供給(管内の流れ、圧力損失等)に関しては、機械工学の流体力学・材料力学・熱力学を勉強していた事が大いに役立ち、得意分野でした。ところが、導管が土中、コンクリート中、空中等に存在することにより、導管を取り巻く環境、つまり土壌、砂、水、風、金属類、温度、振動、迷走電流等々がガス管に不具合をもたらすことが解りました。ガス導管を維持管理し、新規パイプラインを建設する上で不具合の改修が必須でした。改修するために土木工学・電気工学・化学工学・地質学等の分野と云った所を時間かけ調査し、ガス管の不具合に対して最善の対策を講じることが出来た。その時の業務に従事でき、大変良い経験でした。次の仕事は、製造するガスの変更(石油系・石炭ガスから天然ガス)に伴う業務で、新しい仕事でもあり今迄の経験を生かし、新たな課題にチャレンジできました。仕事はこのような繰り返しで、振り返ると大変充実した会社生活を過ごした。

<趣味等>

学生時代から柔道をやっていましたが、30歳前に仕事の転勤があり、道場に通う事が困難になり柔道を卒業しました。その時にふとしたきっかけでゴルフを勧められて始めました。今もやっていますがゴルフ技術とは奥深いようで一向に向上しないのですが楽しい時間を過ごせます。これからも継続していきたいと思います。

現役終盤より趣味と実益を兼ねて野菜、果実等のものづくりを！栽培技術を日々模索して、まだいろいろと失敗の連続ですが、納得できる作品ができると嬉しいです。ゴルフと同様楽しくやっています。

◆総務委員 上田 千秋 (1975年 工業化学 修)

<仕事>

1975(S50)年に卒業し、入社した住友精化(株)では研究所に配属となり、研究所では香料、医薬品原料の合成を担当し、姫路工場に転勤後はポリマー製品、シリコン系の製品の開発研究、東京勤務時代は粉末プラスチックの開発、微粒子ポリマー製品、水系接着剤の開発業務、大阪本社で企画室、事業部の開発部門とテーマ探索といった業務を中心に会社生活を送ってきました。

製品開発は、用途の把握や市場が求めているものを提供していく立場で国内以外にも海外出張の機会もいただき、文化の違いに刺激を受けたことも思い出深いものでした。

海外企業とのやり取りで感じたことは日本の企業は非常に論理的ということです。日本では作成したデータをベースに話し合い、方向性をだし、検討するのが一般的ですが、海外の企業は口頭での説明で、資料の提出はないといったことがしばしばで、あとの対応を行うための報告書の作成は大変でした。

また、アメリカ訪問時に、街を歩いているアジア系の人に話しかけると、韓国人や中国人で日本人に出会うことはあまりありませんでした。現在の韓国、中国の躍進の原点はこのころから始まっていたと思います。若い人にはグローバルな活動を期待したいものです。

<趣味>

会社を退職後、約250坪の畑の対応と、植えられた木々のおもりのため、地域の高齢者大学に入学し、園芸学科で庭木剪定の勉強を行っています。

クラブ活動として太極拳クラブに入部し、部長として70名強の部員の世話を引き受けております。太極拳は、なかなか奥深いもので、スムーズな動き、身のこなしが出来るまでには時間がかかります。出来た仲間と台湾旅行に行ったり、検定試験、カーニバル、合宿、大学祭での演武など時間のゆとりが取れない日々となっております。また、インターネットクラブにも所属し、写真の処理や、ビデオの編集などにもトライアルしている近頃です。



◆会報編集委員 坂口 満明 (1978年 合成化学 修)

<仕事>

1978(S53)年4月に大学を卒業し、名古屋の(株)中島化学産業(化学薬品取扱商社)に入社するも1年4カ月で退社。大阪に戻り3カ月間失業した後、昭和54年11月に(株)セブンツーセブン(美容室対象の化粧品会社)に入社。そこで定年(平成24年4月)を迎えることとなりますが、在職中は、営業として出張の連続でホテル暮らしを主に日本全国の代理店を定期的に訪問、最後の10年間は、名古屋に単身赴任というように在職期間の約3分2は、家に帰らない有り様。そのかわりプライベートも入れると47都道府県全部に足を踏み入れました(自慢できることと言えばこれぐらいしかありません)

退職後は、一般財団法人大阪労働協会が、大阪府から受諾した1年間(平成25年2月～平成26年1月)限定の事業(内容は、大阪府内の普通科高校生(主に1～2年生)に理系分野や専門分野に興味を持ってもらうために高校と物づくり企業とを結びつけ、企業に高校での「出前授業」をお願いしたり高校生の職場見学・体験等を受け入れて頂くというもの)に携わりました。その後、その折に関わった高校から事業を継続して欲しいとの要望もあり、現在は同じ事業に従事した方と2人で一般社団法人「青少年進路支援協会」を設立し企業・団体の無償協力を受け主に高校生を対象とした理系教育・キャリア教育支援の活動をボランティアで行っております。

ホームページ(URL: <http://s-shinro.or.jp>)にプログラム実施風景を載せていますので暇な時にでも見て頂きご協力して頂ける機会があれば幸いです。

<趣味等>

- ①切手収集 ②短歌を詠むこと ③陶芸 ④賭け事：競馬(パチンコは卒業)
- ⑤スクウェアダンス(ウォーキングダンス)



★「第12回 定期総会」中止のお知らせとそれに伴う措置について

会員の皆様には、4月中旬にハガキでもってご連絡させていただきましたが、来る6月21日（日）茨木市福祉文化会館（オークシアター）にて、開催を予定していました「第12回 定期総会」は、「新型コロナウイルス感染拡大」による「緊急事態宣言」が発せられたことから、皆様の健康と安全を最優先させていただき、「中止」とさせていただきます。

開催を心待ちにされていた方には、誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

また、例年であれば、定期総会の案内状と共に送らせていただいていた「2019年度 事業報告(*1)」「年会費納入のお願い(*2)」および定期総会でご報告していました「2019年度 会計報告・特別会計報告及び会計監査報告」と同じく審議・ご承認をいただいていた「2020年度 事業報告(案)」「2020年度 予算(案)」は、今回の会報と共にまとめてご報告・送付させていただきます。

今回は、前代未聞の緊急事態となりましたため、変則的な措置となりましたことにご理解とご了承を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(*1)「2019年度 事業報告」: 本会報(2~5ページ)にかけて詳しく掲載しています。

(*2)「2020年度の年会費納入のお願い」: 定期総会の中止、各行事の開催見通しが立たないことから、年会費の納入は、お願いしないことと致しました。

★麻雀同好会

○開催日/奇数月下旬の平日 午前10時~午後5時まで

○場 所/梅田「ミスターりんビル」8階

(曾根崎警察署斜め向かいのビル)

都会のだ真中にもかかわらず平日の朝10時から午後5時まで雀代がたったの1,080円でソフトドリンク飲み放題の安さ!

これに会費1,000円を持ち寄って1位から3位とブービー賞の表彰を行う形式で、禁煙とボケ防止に役立つ健康健全麻雀です。

学生・現役時代では良くやったがリタイア後は遠ざかり、暇を持て余している方など、ご興味のある方は、お気軽に事務局までご連絡下さい。お待ちしております!



<名簿管理委員会から会員の皆様へのお願い>

会員の皆様から頂きました“入会申込書”等の個人情報は、「会員皆様への情報発信」と「会員相互の交流・連絡等」を図る重要なツールであります。これら支部活動を迅速・円滑に進めるためにも絶えず最新の情報として整理しておく必要があります。

そのため、住所、電話番号、メールアドレス等、お届け頂いている会員皆様の情報に変更が生じた場合や、メールアドレスを新規に取得された場合には、お手数ですが直ちに事務局までご連絡をお願いいたします。

今後とも会員の情報管理には万全を期し、支部活動にのみに活用させていただきますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

入会情報やあらゆる情報のご連絡、お問い合わせ先

岐阜大学工業倶楽部 関西支部 事務局長 大森 和男
〒550-0012 大阪市西区立売1丁目4番9号

中井産業ビル4F 株式会社 光栄内

Tel : 090-3996-3306 Fax : 072-738-3369

E-mail : nrh53171@nifty.com

ホームページ : <http://gifudai-kansai.g.dgdg.jp/>

岐阜大学工業倶楽部 関西支部

発行人 支部長 岡田 敏嗣

編集人 会報編集委員会

委員長 菅村 浩

担当 湊 紀夫 井上 和夫 平井 佳紀

坂口 満明